

中間レビュー調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ベトナム	案件名：北西部省医療サービス強化プロジェクト
分野：保健医療	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部保健第二グループ保健第三チーム	協力金額（評価時点）：約 2.51 億円（R/D 締結時）
協力期間	2013年3月20日～2017年3月19日（4年間）
	先方関係機関：保健省医療サービス局
	日本側協力機関：国立研究開発法人国立国際医療研究センター
	他の関連協力：保健医療従事者の質の改善プロジェクト（技術協力プロジェクト）
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ベトナム政府は下位医療機関を含めた地域の医療サービスを強化する手段として地域医療指導活動〔(Direction of Healthcare Activities : DOHA)／講師派遣、研修員受入れ、研修などで上位病院が下位病院を指導・支援すること〕を推進している。この DOHA を支援するため、JICA は「ホアビン省保健医療サービス強化プロジェクト（2004年12月～2009年12月）」を実施し、DOHA とリファラルシステムの強化による省レベルの医療サービス強化のモデル化を図った。このプロジェクトの結果、省総合病院と郡病院間のリファラルシステムが確立し、DOHA による研修サイクルが導入され、ホアビン省の経験に基づく DOHA ハンドブックが作成された。</p> <p>また、同国では保健人材が大都市に集中する一方、北西部などの地方においては人員・人材の不足が深刻化している。このため、ベトナム政府はホアビン省で確立された DOHA モデルを北西部に普及し、各省で省総合病院と郡病院の医療サービスネットワークを強化するとともに、ホアビン省においては郡病院とコミュニケーション・ヘルス・ステーション間のリファラルシステムを確立することを目指した「北西部省医療サービス強化プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）の実施を日本政府に要請した。</p>	
1-2 協力内容	
上位目標	DOHA 及びリファラルシステムの強化により、北部山岳省の医療サービスの持続的な改善に寄与する。
プロジェクト目標	対象省のDOHA及びリファラルシステムが強化される。
成果1	DOHA 及びリファラルモデルを対象省に普及するために、保健省の DOHA に関するマネジメント能力が強化される。
成果2	ホアビン省においてコミュニケーションから郡病院及び省総合病院に至るリファラルシステムが構築される。
成果3	ソンラ、ライチャウ、ディエンビエン、ラオカイ及びイエンバイの5省において、省総合病院と郡病院間の DOHA 及びリファラルシステムに関するマネジメント能力が強化される。

1-3 投入（中間レビュー時点）

【日本側】

専門家派遣	長期専門家 2 名、短期専門家 1 名（49.3 人月）
機材供与	201,478 US ドル
ローカルコスト負担	303,785 US ドル
本邦研修員受入れ	15 名

【ベトナム側】

カウンターパート配置	48 名
カウンターパート予算	68,340 US ドル

2. 中間レビュー調査団の概要

調査者	Dr. Luong Ngoc Khue	保健省医療サービス局局长
	Mr. Cao Hung Thai	保健省医療サービス局副局長
	吉田 友哉（団長・総括）	JICA 人間開発部保健第二グループ保健第三チーム課長
	三好 知明（技術参与）	国立国際医療研究センター国際医療協力局人材開発部長
	李 祥任（協力企画）	JICA 人間開発部保健第二グループ保健第三チーム特別囑託
井田 光泰（評価分析）	合同会社適材適所シニアコンサルタント	
調査期間	2015 年 3 月 30 日～4 月 18 日	評価種類：中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 進捗・実績の確認

【成果 1（保健省）】

リファラル通達（Circular 14）が作成・発布され、各レベルの病院によるリファラル活動が制度化された。DOHA 通達の作成も進んでいる。リファラルデータ管理・報告のためのソフトウェア導入はまだ検討段階で遅れている。全国版の DOHA ハンドブックはプロジェクト後半で 6 省の経験をもとに作成予定である。

【成果 2（ホアビン省）】

これまでに 1 郡でリファラルシステムが構築され、もう 1 つの郡では 2015 年 6 月から当システムを開始予定。残りの 9 郡については 2015 年中に開始予定。省内の 11 郡病院と 205 のコミュニン・ヘルス・ステーション（Commune Health Station : CHS）でのネットワーク構築のために、より注力が必要である。

【成果 3（5 省）】

全省で DOHA のための体制作りが大きく進み、リファラルデータの集計・報告やリファラル会議の開催も始まった。今後は DOHA の研修サイクルの確立と、リファラルデータの詳細分析、その分析結果を活動計画に反映させるための能力向上が重要となっている。

3-2 評価結果の要約

妥当性

保健省は、通達や決定を通して DOHA を推進しており、DOHA とリファラル活動は省・郡病院の医療サービスを向上したい対象 6 省のニーズにも合致している。本プロジェクトの主旨は、ベトナムに対する日本政府の国別援助方針にも合致する。

有効性

6 省では郡病院以上のレベルでは、プロジェクト終了までに各省で自律的に DOHA とリファラルシステムを運営できるようになる見込みであり、対象病院の質の評価指標（郡から省病院へのリファラル件数の減少、診断間違いの減少、プロジェクト対象病院での医療サービス改善など）の向上も期待できる。

効率性

プロジェクトの支援を受けて、保健省はリファラルシステムの導入を求める通達を出し、今後 DOHA についても同様に通達を準備している。対象 5 省での DOHA 推進とリファラル体制作りは順調に進んでいる。しかし、ホアビン省でのコミュニケーションと郡病院のリファラルシステム作り及び、リファラルデータ管理・報告のためのソフトウェアの導入もまだ試行段階に至っていない。

インパクト（見込み）

保健省の通達により、DOHA とリファラルの強化は全国に求められることになる。特に、状況が類似した北部山岳地域の 8 省では、DOHA とリファラルシステムの構築が進むことが期待される。すでにいくつかの近隣省がプロジェクトの成果に関心を示している。

持続性（見込み）

政府方針や制度面で保健省は DOHA 強化を進めている。研修では上位病院の講師人材を活用しており、技術面の持続性も高い。財務面の持続性は、省・郡病院の財務状況と研修予算確保の意思に大きく依存する。また、DOHA のための十分なマンパワー確保と経験ある DOHA スタッフの維持も課題である。

3-3 効果発現に貢献した要因

- ・ 省での経験を元にリファラル通達を出すなど、地方と中央政府で政策化に向けた連動が取れたこと。
- ・ 省レベルのカウンターパート機関の意欲が高く、カウンターパート予算不足にも個々の組織の努力で対応してきたこと。
- ・ ベトナム政府やドナー支援で省総合病院と郡病院のハード整備（施設と機材）が進み、ソフト面の支援が進めやすくなっていること。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

特になし。

3-5 結 論

プロジェクトは保健省の政策と対象 6 省のニーズに合致しており、妥当性は高い。対象 6 省では DOHA とリファラルシステムの体制作りが進んでおり、終了時までにはその効果（病院の質の評価指標の改善など）も期待できるため、有効性も高いといえる。効率性はリファラルデータ管理のためのソフトウェアの導入とコミュニケーションレベルのリファラルシステム構築に遅れがあり、一部課題がある。プロジェクト成果を他の周辺省へ普及できる可能性は高いため、インパクト発現は可能性が高い。持続性については DOHA 活動のレベルを維持するうえでの財政面の措置と継続的な DOHA 担当者の確保など一部課題がある。

3-6 提言（本プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

(1) Central Project Management Unit (CPMU)（保健省医療サービス局）

- 2015 年末までに DOHA 通達（Circular）を發布すること。
- 病院質評価に DOHA 及びリファラル活動に関する指標を加え、2015 年からの評価に反映すること。
- ベトナムで実施されている事業を考慮して、本プロジェクトにおけるリファラルデータ管理・報告のためのソフトウェア開発を進めること。

(2) Provincial Project Management Unit (PPMU)（対象 6 省の保健局、省総合病院、郡病院）

- 省の保健局及び省病院は、リファラルデータの詳細分析とその結果を活用して、各省病院・郡病院の医療サービスの向上にかかる年間計画を策定すること。
- 省病院 DOHA 部は各臨床技術研修の終了後に、省内の医療機関における研修効果やインパクト（研修参加者の能力の向上、下位医療機関からのリファラル件数の減少など）の発現を確認し、これらの情報を研修計画に反映させること。

(3) プロジェクト

- 医療機関間のリファラル強化のために対象省を定期的に訪問し、活動の促進を図ること。（特に、ホアビンにおける郡病院と CHSs 間のリファラル強化）
- リファラルデータ管理・報告のためのソフトウェアを開発するために、対象省における既存の病院管理情報システムを含む IT システムの情報を収集し分析すること。

3-7 教 訓

本プロジェクトでは、プロジェクト開始後、プロジェクトオペレーションのためのマニュアル（プロジェクト会計手続きを含む）を作成し、ワークショップを開催した。こうした取り組みは、カウンターパートの共通理解を図るうえで有効であった。複数の省がカウンターパートとなる場合は特に有効である。